



2020年2月28日

日本鉄道労働組合連合会

J R 二 島 ・ 貨 物 経 営 自 立 実 現 P T 第 2 回 会 合

J R 貨 物 グ ル ー プ の 「 あ り た い 姿 」 を ヒ ア リ ン グ !

2月27日、「J R 二島・貨物経営自立実現P T」第2回会合を開催した。今回はJ R 貨物を招き、経営自立にむけた課題等についてヒアリングを実施した。

冒頭、泉健太衆議院議員（J R 連合国会議員懇談会副会長）が挨拶に立ち、新型コロナウイルスの感染拡大による交通事業者に対するさまざまな影響とその対策の難しさについて触れた後、「日本の物流を支えるJ R 貨物はさまざまな制約を抱えているが、いかに活用していくかを考えなければならない」と所信を述べた。



続いて、荻山会長は本P Tの趣旨として「労働組合がなぜこうした取り組みを進めるのか。離職が相次いでおり、人材をいかにして確保していくかが課題となっている。将来に希望の持てる持続性のある会社にする必要がある」とし、「そのための支援、そしてめざすべき姿を働く者が示していかなければならない」と力強く語った。

J R 貨物からは将来的なビジョンとして今後の経営方針や課題について説明があり、参加議員らとともに、J R 貨物のさまざまな課題等について会社の考え方などを聞き取り、理解を深めた。とりわけ、会社からは、北海道地域にまつわる課題については「①青函共用走行区間、②単独維持困難線区、③並行在来線の3点」との認識が示され、③については「今後のあり方について、貨物鉄道ネットワークの観点からの議論が欠かせない」とのことであった。

J R 二島・貨物経営自立実現P Tは残る2社に対するヒアリングを近日中に実施することとし、さらなる課題抽出と方策に対する検討を深めていく。